

## 北山川水系 葛川本流 沢登り

記録 シリウス班 丸～

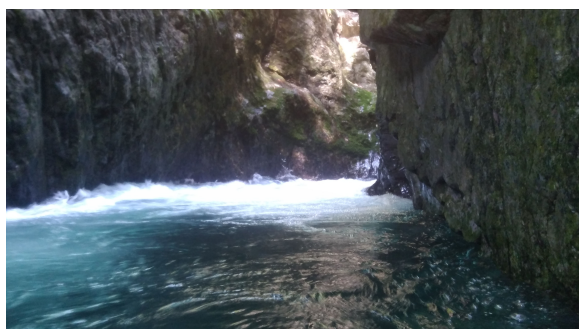
山行日：令和3年7月24日（土）晴れ

メンバー：単独

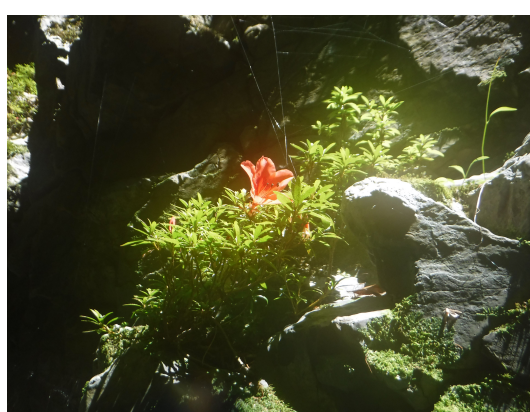
タイム：田戸橋9時→S字淵→大渡橋11時30分→一ノ滝12時→二ノ滝13時

前回、7月19日（月）梅雨明けすぐの暑い日に休みが取れたので葛川に行ったが、水量が多く、序盤から激流でなかなか進めず核心のS字淵で敗退した。今回は、約1週間まとまった雨が降らなかったのがチャンスだと思いリベンジ。

5時30分自宅発、8時20分頃に到着し、エスケープ地点の大渡橋傍にある廃屋に自転車をデポし、沢から上がって来れそうなところに40mロープを垂らしておいた。起点の田戸橋まで戻り、準備して出発。450mほど車道を歩いて、前回、沢から這い上がってきた地点から入渓。すぐ核心のS字淵。朝陽が差し込み幻想的だが、洞窟の中にいるような感じで不気味だ。淵出口の流れが核心。空身で1回泳ぎ、流れを確認。いけると判断した。小滝から流れ落ちる水は気泡で泡立って、浮力は低いので注意が必要だ。呼吸を整え猛烈に泳ぎ渡る。小滝に引きずり込まれないよう、滝ぎりぎりのところを這い上がる。荷物を手繰り寄せ難所は越えた。



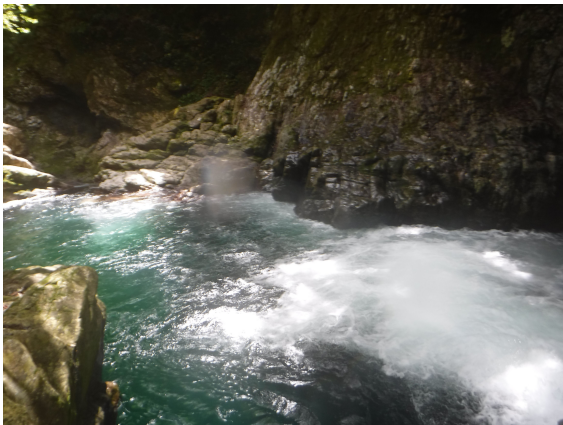
その後、河原歩きもあるが泳ぎが中心。沢中、所々ガードレールが見え、エスケープできるところがいくつかあって安心した。淵は微妙な流れがあり、結構くたびれた。11時15分頃、橋が見えてきた、大渡だ。時間も余力もあったので軽く食べてから先



に進む。河原歩きや小滝を超えていく。12時前、河童が住んでいそうな両岸が切り立った凄い淵が現れた。カーブしたところは水流で岩はえぐられていた。岩が落ちてこないか、河童は出てこないかビビりながら泳ぎ進む。



12時過ぎ、一ノ滝が見えた。滝に近づき釜の水の流れを観察してから、渡れそうなラインに向けて飛び込んで対岸に泳ぎ渡る。中段テラスまで登り、荷物を回収。滝そばの凹角のボルダーを登る。



滝上は短いがきれいなナメ床。13時、見事なすだれ状の二ノ滝が現われた。今回はここで遡行終了とした。少し休憩して滝手前の右岸から水が流れ込むルンゼを登り、踏み跡をたどると二ノ滝バス停が目の前に、13時15分。大渡まで歩いて車道を下り、大渡でロープを回収し、自転車で楽ちん下山した。夏の泳ぎ沢は最高ですね～。

